

## 令和3年度第1回江田島市総合教育会議 議事録

令和3年11月15日(月)、江田島市役所4階会議室において、令和3年度第1回江田島市総合教育会議を開催しました。

### 1 開会及び閉会に関する事項

開会 午後3時00分

閉会 午後4時50分

### 2 出席者

#### (1) 構成員

|               |         |
|---------------|---------|
| 市長            | 明 岳 周 作 |
| 教育委員会教育長      | 小野藤 訓   |
| 教育委員会教育長職務代理者 | 三 島 雅 司 |
| 教育委員会委員       | 樋 上 美由紀 |
| 教育委員会委員       | 小宇根 康 典 |
| 教育委員会委員       | 泊 野 仁 美 |

#### (2) 関係者(教育委員会事務局)

|                |         |
|----------------|---------|
| 教育次長           | 山 井 法 男 |
| 学校教育課長         | 山 近 宏   |
| 生涯学習課長         | 江 郷 洋 子 |
| 学校給食共同調理場総括場長  | 仁 井 雄 一 |
| 大柿自然環境体験学習交流館長 | 西 原 直 久 |

#### (3) 総合教育会議事務局

|              |         |
|--------------|---------|
| 総務部長         | 山 本 修 司 |
| 総務課長         | 越 野 竜   |
| 総務課 総務情報係 主任 | 花 野 泰 司 |

### 3 傍聴人

なし

### 4 議事日程

- (1) 議事録に署名する者の決定について
- (2) 報告第1号 令和3年度江田島市教育委員会経営計画(中間評価)について
- (3) 報告第2号 全国学力・学習状況調査について
- (4) 報告第3号 学校統合の取組について
- (5) 協議第1号 児童・生徒数の今後の推移について
- (6) 協議第2号 学校給食共同調理場統合の見通しについて
- (7) その他

### 5 議事の概要

○ 越野総務課長

それでは、皆様お集りになりましたので、ただ今から、「令和3年度第1回江田島市総合教育会議」を開催いたします。

現在、出席されている構成員の皆さんは、6名でございます。

本日の議事日程は、「資料1」のとおりでございます。

なお、本日の会議には、構成員の皆様に出席していただいたほか、教育委員会事務局職員5名、総合教育会議事務局職員3名が出席しております。出席者の紹介は、お手元の「資料2」に代えさせていただきます。

それでは、開会に当たり明岳市長から挨拶を頂きます。よろしくお願いいたします。

○ 明岳市長

失礼いたします。

皆さんこんにちは。本日はお忙しいところ、この会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

この会議は、皆さん御承知のとおり、市長と教育委員会の委員の皆さんとで協議をして、江田島市の教育を、子どもたちにとって、より良いものにしていくための会議でありますので、従前どおり、何とぞ忌憚きたんのない御意見を賜りたいと思っております。

本日の会議は、この次第でございますように、まず、報告第1号で令和3年度江田島市教育委員会経営計画（中間評価）を、そして報告第2号として全国学力学習状況調査、報告第3号として学校統合の取組について報告を受けたいと思っております。

それに引き続きまして、協議第1号で児童生徒数の今後の推移について、協議第2号で学校給食共同調理場統合の見通しについて協議をさせていただきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○ 越野総務課長

ありがとうございました。

それでは、ここからの議事進行は、明岳市長にお願いしたいと思います。明岳市長、よろしくお願いいたします。

○ 明岳市長

それでは、私の方で会議を進めさせていただきます。

この会議は公開となっておりますけれども、残念ながら傍聴の申込みがございませんでした。早速議事に入らせていただきたいと思います。

まず、「(1) 議事録に署名する者の決定について」でございます。江田島市総合教育会議運営規程第14条第2項の規定によりまして、私とともに議事録に署名する方を決定させていただきます。この件につきましては、平成27年の7月21日に開催されました、平成27年度第1回江田島市総合教育会議において、申し合わせましたとおり、資料2にございます名簿の構成員の下段から順番となっております。前回三島委員でございましたので、今回は、小野藤教育長にお願いをします。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、総合教育会議運営規程第14条第1項の規定によりまして、議事録を作成する者には、総務課の花野主任を指名させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、報告第1号の「令和3年度江田島市教育委員会経営計画（中間評価）について」でござ  
います。内容につきまして、小野藤教育長に説明を求めます。どうぞよろしくお願  
いいたします。

○ 小野藤教育委員会教育長

それでは、配付資料4ページの資料4をお開きください。報告第1号とあります。令和3年度  
江田島市教育委員会経営計画中間評価についてでございます。

教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況に関しまして、令和3年度江田島市教育委  
員会経営計画の中間評価を実施いたしましたので、その内容を会議に報告するものでござ  
います。詳細につきましては、学校教育課長、生涯学習課長、さとうみ科学館長から説明いた  
します。どうぞよろしくお願  
いいたします。

○ 山近学校教育課長

それでは、資料4の1ページを御覧ください。「令和3年度江田島市教育委員会経営計画（中間  
評価）について」簡単に報告させていただきます。

まず、学校教育課分についてでございます。中期経営目標を「信頼される学校づくりを推進す  
る。」とし、短期経営目標を「教職員による不祥事をゼロにする。」として、今年度の評価指標に  
もご  
ざ  
い  
ま  
す  
よ  
う  
に、懲戒処分件数を0件とするための取組を進めています。

しかしながら、今年度は、懲戒処分には至らなかったものの、7月には市内小学校教諭による  
不十分な教科指導及びテスト未実施・未返却に係る事案が1件生起いたしました。

このようなことも踏まえ、改善策といたしましては、校長会、教頭・事務長会において、「服  
務規律の確保」に関する講話を繰り返すとともに、教育課程の確実な実施のためのチェックリ  
ストを活用させたりしながら、不祥事防止に向けた取組を強化し、進捗状況を適宜確認して  
いくなどの取組を行っています。

今後も12月には指導主事等が各学校を訪問し、取組の進捗状況を確認してまいります。

次に、中期経営目標を「児童生徒の学力の向上を図る。」とし、短期経営目標を「習得した知識・  
技能を活用する力を向上させる。」として、今年度の評価指標は「江田島市小中学校学力調査の全  
学年の平均正答率が、全国値を昨年度以上に上回るようにする。」こととしております。

具体的な取組・方策としましては、各校で確実に学力向上に向けた組織的・計画的な取組を実  
施できるよう、教務主任研修等において、具体的な指導助言を行っています。

今年度の学力調査の実施時期は令和4年1月に実施を予定していますので、今後も継続的な指  
導助言を行ってまいります。

次に、中期経営目標を「児童生徒の豊かな心を育成する。」とし、短期経営目標を「不登校児童  
生徒数を減少させる。」として、今年度の評価指標を「不登校児童生徒の割合を小学校では3名以  
下、中学校では5名以下」といたしました。

しかしながら、中間報告の評価にもございますが、9月30日現在、小学校につきましては、  
2名不登校児童がおり、中学校においても12名不登校生徒がいる状況で、目標の達成が難しい  
状況です。

今後の改善策としましては、問題行動に対する学校の指導体制や不登校傾向の児童生徒の状況  
をしっかりと把握しながら継続的な支援を行い、各校の実態に応じた指導助言を継続的に行っ  
てまいります。

次に、中期経営目標を「児童生徒の体力の向上を図る。」とし、短期経営目標を「運動習慣の確

立に向けた取組を充実させる。」として、今年度の評価指標を『運動やスポーツが好き』に対して肯定的に答える児童生徒の割合を、小・中学校とも広島県の結果数値を上回る」こととしています。中間報告の評価にもございますが、9月30日現在、「運動やスポーツが好き」に対して、肯定的に答える児童生徒の割合は、令和元年度の広島県の調査結果と比較いたしますと小学校5年生、中学校2年生とも肯定的に答える児童生徒の割合が多くなっています。

今後の具体的な取組としましては、引き続き、広島県教育委員会と連携を図りながら、体育科授業において、体力向上に係る指導が充実するよう、取組を行ってまいります。

学校教育課分の説明は以上です。

#### ○ 江郷生涯学習課長

続きまして、生涯学習課分の3点について御説明いたします。

中期経営目標を「魅力ある事業づくりを推進する。」とし、短期経営目標を「実施事業に対する満足感の向上を図る。」として、評価指標を「とても満足した来場者割合」としております。対象事業は以下の4事業です。生涯学習講演会、人権学習講演会、市美術展、ふれあいコンサートのアンケートの平均値としております。目標値は、令和3年度で50パーセントとしております。半期の評価でございますが、この4事業につきましては、下半期の実施事業であるため、評価なしといたしております。

改善策でございますが、コロナ禍においても、市民が安心して参加できるよう、状況に応じた会場設定や運営方法の工夫などを行う。マスコミなどにも働き掛けてPRの強化を図ることとしております。

2点目、中期経営目標を「健康づくり、体力づくりを推進する。」とし、短期経営目標を「公共スポーツ施設の利用促進を図る。」として、評価指標を「スポーツセンターの利用者数」、「総合運動公園の利用者数」としております。スポーツセンターの利用者数につきましては、令和3年度、2万4,000人を目標としております。半期実績で、7,898人で32.9パーセントでございます。総合運動公園の利用者数につきましては、目標値1万3,000人のところ、半期実績3,288人で、25.3パーセントでございます。いずれも50パーセントに達しておりませんのは、コロナ禍による施設の閉館によるものでございます。

改善策です。感染拡大防止対策を講じながら、利用者が安全・安心に施設を利用できるように取り組み、今後の安定した施設利用につなげることとしております。

3点目です。中期経営目標を「図書館の充実を図る。」とし、短期経営目標を「図書館年間貸出冊数及び来館者数の増加を図る。」としております。評価指標は、「年間貸出冊数」と「年間来館者数」でございます。大柿図書室は、計画期間中休館のため含んでおりません。

貸出冊数については、令和3年度の目標7万6,000冊で、半期の実績が3万1,203冊でございました。41パーセントでございます。来館者数につきましては、目標が3万3,000人のところ、1万2,772人で、38.7パーセントでございます。

改善策でございます。「利用案内や図書館だより等を市内各所に配布・掲示する。」、「コロナ禍に対応できるサービス（WEB、窓口配送等）を積極的にPRする。」、「読書貯金通帳のPRを強化する。」としております。

生涯学習課分の3事業は、以上でございます。

#### ○ 西原さとうみ科学館長

続いて、さとうみ科学館分です。

中期経営目標は「さとうみ科学館の認知度を高める。」とし、短期経営目標は、「さとうみ科学館の利用者の増加を図る。」で、評価指標は、来館者数としております。

9月30日現在での来館者数は856人で、目標値3,000人に対しては、28.5パーセントとなっております。5月から6月半ば、8月末から9月までの臨時休館など、新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり、同じく、コロナ禍であった昨年度同時期実績を大きく下回っております。ただし4月や8月など、臨時休館を行っていない時期に関しては、コロナ禍ではなかった一昨年、令和元年度の実績を上回っている月もあることから、今後も引き続き感染防止対策を継続し、利用者の安全・安心を確保するとともに、館内で行う観察会やイベントの実施方法を工夫しながら、今後のPR活動に取り組んでまいります。以上で説明を終わります。

○ 山近学校教育課長

資料4の2ページから9ページは、それぞれの評価項目の点検評価票を添付しておりますので、併せて御参照いただければと思います。説明は以上でございます。

○ 明岳市長

はい、ありがとうございました。

ただいま、「報告第1号 令和3年度江田島市教育委員会経営計画（中間評価）について」の説明を受けました。これにつきましての御意見はございませんでしょうか。

○ 三島教育委員会教育長職務代理者

1点目の不祥事に関する点ですけれども、信頼される学校づくりにおいては、職員の不祥事がないということがとても大切なことだと思います。7月にテストの未実施といういわゆる不祥事が発生したと思います。その改善策に取り組んでおられると思いますが、今現在どのような状況にあるのかということを具体的に説明してください。

○ 明岳市長

山近課長から実績値が0件であることの理由と併せて報告をお願いします。

○ 山近学校教育課長

この度の事案につきましては、県教育委員会で処分量定というものが決められまして、当該教員については訓告、学校長については説諭ということで、教育長から指導をさせていただいています。したがって、懲戒処分には当たりませんので0件としているところでございます。また、今学校で取り組んでいることですが、もう二度とテストの未実施がないように、例えば週案というものがあるんですが、各教員は、テストをしたら週案に書く。そして、実物を持ってきてチェックする。何月何日にチェックをできた。そして、このテストは何月何日に返却した。そういったことを確実に記入する。という取組を進めております。以上でございます。

○ 明岳市長

今の回答について、三島委員はいかがでしょう。

○ 三島委員

人間のやることですから確認漏れということはあるかと思いますが、なるべくそういうことがないように複数の目で確認し、それから管理職も一層引き締めて指導していただければと思います。

○ 明岳市長

ありがとうございます。そのほかないでしょうか。

○ 樋上教育委員会委員

3番目の不登校児童生徒への取組のところよろしいでしょうか。

今、コロナ禍で、全国的にも、県下的にも不登校がなかなか減少していかない状況です。江田島市においても資料を見ますと、9月現在で、中学生12人という不登校生徒がでています。

不登校の問題は、学校の課題の中でも1番大きな課題で、心配なことだと考えています。

私も、最近中学校のSSRのクラスに参加させてもらいました。県の指定を受けていて、いろいろな手立てをされていました。そうしながらもたくさんの不登校の生徒がいます。

昨年度から不登校が継続している生徒もいるんじゃないかなと思います。大柿中学校は、見せていただいたので分かるのですが、他校の状況が分かりませんので、この12人の生徒の状況について教えていただきたいと思います。

コロナ禍で、不登校が長く続いて、なかなか学校に行きにくい生徒もいると思います。不登校というのは、状況が皆違うと思います。環境もあろうし、家庭のこともあろうし、いろんなことが原因となって起こるわけなんですけども、これを本当に早く解決して、学校に来られるようにしてあげたいというのは、学校が1番思っていることだと思いますが、この12人の生徒がどのくらいの長さの不登校なのかということをお聞きしたいと思います。

○ 明岳市長

なるほど。山近課長どうでしょうか。

○ 山近学校教育課長

先ほど9月30日現在で、小学校2人、中学校12人ということで説明させていただきました。

昨年度は、これが5人と13人であったのですけれども、昨年度不登校で今年度も不登校になっている生徒はどれぐらいかということで調査をいたしました。

調査の結果は、トータルで7人です。全て中学校で、12人のうち7人が昨年度も不登校で今年度も不登校ということです。先ほどもありましたように、本来であれば、年度が変わったところで、しっかりとそこをケアしていきたいところですが、学年をまたいでも、また引き続きということで、継続となっている状況です。以上です。

○ 明岳市長

12人中7人が継続ということは、5人は新規に不登校になったと。ということは、小学校から持ち上がりで不登校になった生徒もいるんですかね。

○ 山近学校教育課長

そうですね。小学校卒業時に不登校であった生徒については、中学校になったときに本当は解決したいのですが、やはり中学校になっても年間30日以上休んでしまっているという状況がございます。

○ 明岳市長

樋上委員が先ほど不登校の原因についておっしゃられましたが、7人の生徒は具体的にどういったことが原因で来られない状況なんですか。

○ 山近学校教育課長

様々ございますけども、一例で申し上げますと、昨年度はコロナ禍という状況がございまして、4月から6月まで約2か月間、臨時休校があり、長い期間学校を休むことになりました。そのときに、家庭で生活のリズムを崩してしまいがちになりました。その期間、つついパソコンや携帯電話といったものに夢中になってしまって、6月に再登校する折に、昼夜逆転状態になってしまっており登校できないという生徒も出てしまいました。一度そのような生活状態になりますと、急に生活リズムというのは変わらないわけで、引き続き、学校に行きにくい状況が続いてしまっているといったケースがございます。

○ 明岳市長

樋上委員どうですか。

○ 樋上教育委員会委員

とてもよく分かりました。学校でいろいろ取り組んでおられると思いますが、家庭があることなので、学校だけではなかなか解決が難しいところもあると思います。

特にこのコロナ禍で、いろんなイベントがなかったり、学校の中での楽しい横のつながりも希薄になったりしているの、難しい状況になっているというのを感じます。

○ 小野藤教育委員会教育長

今の件で、教育委員会としても各学校長としっかり連携を取り、指導もしています。30日学校に来られないと不登校として、カウントされるんですけども、その後、学校に来ている生徒もいるんです。完全に不登校という、全く来られない生徒もいるのですが、来たり来なかったりしながら、結局30日を超えたという生徒もいます。そういう生徒に対しても、やはり教育を止めないということが大事です。先ほどSSRといいましたが、これはスペシャルサポートルームの略で、県教委の事業で本市も指定を受けて実施しているものです。この機能をしっかり生かして、学校に来たら1時間でも2時間でも別室でその生徒に合った教育をしていく。中学校を卒業するともう社会に出ていくわけですから、その進路に関わる場所もありますので、例えば全日制の高校は難しいのであれば、通信制の学校へ進学を勧めるであるとか、その生徒が生涯にわたって社会で自立できるような指導をしていきたいと考えています。

完全不登校の生徒についても、家庭訪問を通して、家庭に出向いて、そこでできる教育をして、将来のその生徒の自立に向けて取組を行っているところです。

できることは限られており、地道な取組ではあるのですが、それをやめてしまったら、全くその生徒に対しての教育が止まってしまうので、そうならないように、担任の先生に負担が掛かる

と思うのですが、やっております。

○ 明岳市長

やはり、学校の先生は、大変ですね。

○ 小野藤教育委員会教育長

生徒の人生が懸かっていますので、教員にはそういう気持ちを持ってほしいと思っています。

○ 明岳市長

そのほかにありませんでしょうか。

○ 泊野教育委員会委員

生涯学習課の「魅力ある事業づくりを推進する。」ですが、コロナ禍でこの事業を行うのは本当に大変なことだと思います。この度、緊急事態宣言等の行動制限も解除されて、市美展やふれあいコンサートなどを行われたと思いますが、来場者数や来場者のアンケート結果や市民からの意見などがありましたら教えてください。

それと、ふれあいコンサートについては、チケットがすぐに完売されたとお聞きしました。来年度、もしコロナ禍がもう少し収束した場合には、そのチケットを増やすことができるのかなど、そういった対策をちょっと教えてほしいです。

○ 江郷生涯学習課長

はい。まず市美術展についてでございます。11月3日から11月7日まで、今年は5日間の開催をいたしました。例年は4日間ほどの開催ですので、今年度は1日長く開催をしております。5日間通しての入場者数は、1,454人です。そのうちコンサートを3日間、計6回開催しております。コンサートについては、約500人の方に音楽を楽しんでいただきました。

アンケートの結果につきましては、1,454人中で有効なアンケートの回答が450件ございまして、これが30.9パーセントに当たります。満足度を調査しており、「とても満足した」、「満足した」、「普通」、「不満」、「とても不満」と5段階に分けております。「満足した」と「とても満足した」を足した割合は、90パーセントを超えておりました。その中でとても満足したという方は、54パーセントでした。

意見については、今現在、詳細を調査しておるところでございますが、拝見しましたところ、コンサートが大変好評でございました。肯定的な意見が多かったです。

そして、作品につきましても、このようなすばらしい作品を市内で制作されている方がいらっしやっただといったような意見が多数ございました。また、自分も作ってみたいというような意見もございました。

続きまして、昨日行いましたふれあいコンサートでございます。ふれあいコンサートにつきましては、入場者数が230人ございました。アンケートについては、現在集計中でございます。今回のふれあいコンサートでは、チケットの引換券がすぐなくなりました。これは、この度、コロナ禍での対策といたしまして、ふれあいセンターの椅子席を一つ飛ばしにして、間隔を空けて入場数を制限しておりますので、今回は170席でございましたけども、それはコロナ



禍の状況によっては、倍増することができます。状況によっては、来年はもっと増やす予定でございます。

○ 泊野教育委員会委員

そうですね。コロナ禍ということで、市民の楽しみも大分なくなってきたので、そういった状況の中で、こういうコンサートなどが、開催されて本当によかったと思います。もっと多くの方にも見てほしかったです。

○ 明岳市長

はい、ありがとうございます。私も昨日のふれあいコンサートは、最後までいました。日頃クラシックはあまり聴く機会がないのですが、聴いていると本当に気持ちよくなるし、何か身体がきれいになったような気がしました。本当にすばらしいなと思いましたね。生涯学習課の職員の皆さんが頑張ってくれて、コロナ禍での対策もよかったと思うので、来年以降このコロナ禍がこのまま収束すれば、来年はたくさんの人に来ていただきたいと思います。

小宇根委員は、いかがでしょうか。

○ 小宇根教育委員会委員

さとうみ科学館についてお願いします。

コロナ禍により来館者数が大幅に減っているということでしたが、緊急事態宣言が解除されて、開館して、その後はいかがでしょうか。

○ 西原さとうみ科学館長

資料の9ページに点検評価票がございます。

ここに来館者数の推移が書かれております。今お話にありましたように臨時休館で5月、6月と9月に来館者数が減っています。コロナ禍も落ち着きを見せ、10月、11月と回復傾向が見られます。

ここには載っておりませんが、10月は262人、11月はまだ半ばですが311人の来館ということで、徐々に人の動きも回復傾向にあるのではないかと思います。

市外、県外からの利用も、この10月、11月に出てきておりますので、この下半期はしっかりとコロナ禍での対策をとりながら、魅力ある事業を推進していきたいと考えています。

○ 小宇根教育委員会委員

私も校長時代にさとうみ科学館には、海のすばらしさが学べるマリンアドベンチャー、科学研究の相談、朝会や昼休みの時間に自然や科学のすばらしさを教えていただく「わくわくサイエンス」などで大変お世話になりました。また、他地域にも活動が広まっておりますし、調査研究においてもすばらしい成果が出ています。

江田島市の特色、良さとして、アピールできる施設ではないかと思っています。これを今後、もっともっと進めていくのに、市民の協力を得るとか、あるいは江田島市の各部署との横の連携を持つとか、あるいは資料にあるように、SNS等を通じてPR活動をするとか、これらのことは、さとうみ科学館のこれからにとって大事なことだと思っていますが、今後の取組の予定、見直しについてはどうでしょうか。

○ 西原さとうみ科学館長

はい。正に江田島市の魅力、さとうみの魅力、地域の教育資源を活用した教育の魅力・価値というものを実感していただくには、その窓口となるさとうみ科学館にお越しいただいて、しっかりと知っていただき、実感していただく。これがまず1番の方法だと考えておりますので、しっかりとPRをしていくことに力を入れていきたいと考えております。

PRはこちらから発信するPRと、既に情報を様々な方法で提供しているところへの情報の提供という二つの方法があると思うんですが、まずは、私たちでまずできることということで、インスタグラムやY o u T u b eの開設も行いながら、随時、発信をしていきたいと考えております。

また、他課との連携ということでは、企画振興課と連携しながら、地域おこし協力隊を活用した事業推進ということができないだろうかということで、新たなチャレンジを検討しているところでございます。

やはり、来る来ないだけじゃなく、しっかりと江田島市のPR、魅力を発信できる、そういう施設の一つになればと思っていますので、いろんな方法を今後は活用していきたいと考えております。まずは知っていただくこと。これだと思っています。

○ 明岳市長

先ほどもあった、地域おこし協力隊ということで、江田島市地域おこし協力隊員の方々に、この江田島市に根付いて頑張ってくださいと思っています。来年度はその募集をさとうみ科学館に絞ってやろうと思っています。今年度中に来ていただく方を決める必要がありますので、その募集を始めようと思っています。

○ 小宇根教育委員会委員

期待できますね。楽しみです。

○ 明岳市長

楽しみといえば、前回の総合教育会議で話が出た宿泊施設もできました。さとうみ科学館の体験をするために、江田島荘やU m i n o sに泊まっただいて、さとうみ科学館で学ぶということができればと思うのです。実際にさとうみ科学館にはそれだけの中身があると思います。ですので、本当にもっともっとPRしていきたいと思っています。

そのほかございませんか。ほかに御意見がないようでしたら次の議事に入らせていただきたいと思います。

報告第2号の「全国学力・学習状況調査」でございます。内容につきまして、小野藤教育長に説明を求めます。よろしく申し上げます。

○ 小野藤教育委員会教育長

はい。それでは、配付資料の5ページを御覧ください。報告第2号「全国学力・学習状況調査について」でございます。

今年度の市内小中学校の全国学力・学習状況調査の実施状況と、その後の取組等につきまして、その内容を会議に報告するものでございます。詳細につきましては、学校教育課長から説明いた

します。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 山近学校教育課長

資料5の10ページ「全国学力・学習状況調査について」報告をさせていただきます。

まず、対象学年であります、令和3年度の小学校6年生の結果につきましては、10ページの折れ線グラフでございます、国語B、算数B、という表を御覧いただければと思いますが、国語科の正答率は62、算数科は68となっております。

次に、11ページの中学校3年生の結果につきましては、こちらも折れ線グラフの国語B、数学B、という表を御覧いただければと思いますが、国語科の正答率は63、数学科は55となっております。

このように経年変化でグラフを見ていただいてもお分かりのように、今年度の結果につきましては小中学校とも極めて深刻な結果であったと受け止めております。具体的な全市町の結果につきましては、16ページに掲載していますので、後ほど御覧いただければと思います。

次に、詳細につきましては12ページをお開きください。12ページから15ページまでは、各校種教科ごとに本市の結果について分析を行ったものです。例えば、12ページの小学校国語科でいえば、平均正答率が全国を上回ったものは青、下回ったものは赤で示しております。御覧のように「書くこと」の領域以外は、下回っております。中段には本市と全国平均の差が最も大きい2問について、上位と下位を取り上げております。

どの教科も内容を分析しますと、手立てを講じれば、必ずできていたのではないかと思われる基礎的な問題がいくつもありましたので、まずはそこからしっかりと取り組み、特に正答率が40パーセント未満の児童生徒に目を向けて、日頃の授業改善に生かしていきたいと考えております。

次に17ページをお開きください。こちらの表は、8月31日に全国学力・学習状況調査の結果が公表されて以降、9月初旬から10月中旬にかけて教育委員会で取組や報告を行ったものを掲載しています。対象としましては、管理職はもとより、市教研の算数部会や数学部会、各校の校内研修にも出向いて指導主事が直接指導を行っております。

具体的な内容としましては、校長会等で取組方針を指示し、今一度、全教職員で結果分析を行うとともに、改善計画に基づいた組織的な取組が行われるよう、周知徹底を図っております。

各学校が作成した具体的な改善計画につきましては18ページと19ページにお示しをしておりますので、御参照いただければと思います。

今後も、学力向上につきましては、引き続き、各学校の校内研修の場なども活用し、継続的に指導助言を行い、取組状況を確認してまいりたいと考えております。

説明は、以上でございます。

○ 明岳市長

ただいまの説明につきまして、御意見ありましたらどうぞ。遠慮なくおっしゃってください。

○ 樋上教育委員会委員

意見というより感想とか思いでもいいですか。

今年の結果が良くなかったということで、私たち教育委員も微力ながら何かできないか、何ができるだろうかと話し合いました。

まずはコロナ禍で学校に行くことができなかったのも、現場を見せてもらうのが1番ではないかということで、何校か回らせてもらいました。

その中で、子供たちも先生も一生懸命学んでいる姿が見られました。改めて資料を作ってくださいということではなくて、飛び込みという形で行かせていただいたのですけれども。

1年生は、指さしながら音読していたり、姿勢良く授業を受けていたりして、安心するような場面がたくさん見られました。数値に見えない部分もあるので、子供たちが頑張っているなどという場面が見られました。

やはり、この学力調査については、組織の問題や指導力の問題などいろいろあると思うのですが、一生懸命頑張ってる姿は評価したいと思います。

ちょっと手前みそにはなりますけども、この間もある教頭先生と話しました。その教頭先生は、他の市町に3年間おられた方なのですが、江田島市の教育がすごく良いと言っていました。外に出たときにやっぱり江田島市の教育は間違いじゃないと、誇りを持って言われていました。それを聞いたときに私は安心しました。結果が悪かったというのに変な話ではあるのですが、先生たちが自信を持って、江田島市で教えられて良かったと思えるような教育を、教育委員会が、今、展開しているし、しようとしているし、それを継続していかなければならないと思います。その先生の言葉を聞いて、自分たちがやってきたことは間違いではなかったと思いました。

私たちも学力調査の結果が出なかったのは、責任を感じていますし、しっかり検証をしてから、学校へも指導していますけども、市長もあまり気を落とされないようにしていただきたいと思います。

#### ○ 明岳市長

気を落としているわけではないのですが、私は、これまでいろいろな人と話をするときに、県や全国の平均と比較しても、江田島市の教育はいいですよと自慢していたんです。そこに、今回の結果があったので、教育長に電話して確認したのですけどね。しかし、樋上委員が言われたように、江田島市がやってる教育の大綱はすごいと思うんですよ。先ほど小宇根委員がおっしゃったマリンアドベンチャーもそうですが、ほかにはないものがあります。

ただ、やはり数字は客観的なもので、その数字が結局、教員の評価につながる、江田島市の評価につながるということで、私もすぐ坂町の町長に電話したんですよ。坂町の成績が非常に良かったので。やはり気になる場所です。保護者の方にとっても自分の住む地域の教育の客観的なデータはこれぐらいしかないですよ。ですので、そこは気を引き締めてやってほしいと思います。子供たちのために。塾もあまり江田島市にはないですよ。塾がなくても大丈夫なんですよとPRしていたので、頑張してほしいなと思います。数字だけでないのはよく分かっていますが、数字も良くしてほしいというのが今の気持ちです。

#### ○ 樋上教育委員会委員

私は、焦ってというわけではないのですが、今までしたことないような学校訪問もさせてもらったんですよ。やはり、その年、その年で、教員の波も子供の波もあるので、一概にはいえないし、これが全てではないと思っているのですが、少し残念でした。

#### ○ 明岳市長

そうなんですよ。樋上委員からそういう感想をいただきました。教育委員の皆さんも足しげく

各小中学校に行き、見ていただければと思います。正直、学校の先生は大変だろうと思っています。自分では絶対できないなと思っています。

○ 樋上教育委員会委員

やはり、現場の声を聞くのはすごくいいことだなと思います。私はこれといって何も出来ませんが、現場の声を聞いて、少しでも委員会に反映ができたり、職員の相談に乗れたらいいなと思います。

○ 明岳市長

そのほかないですか。

○ 三島教育委員会教育長職務代理者

結局、子供たちに今一番足りない力というのは何なのか把握できていますでしょうか。把握できていれば具体的な改善策がとれると思うので。

○ 明岳市長

山近課長から説明をお願いします。

○ 山近学校教育課長

先ほど、資料の17ページで取組というお話をさせていただいたんですけども、表がございまして、下から2番目に第2回江田島市教務主任研修ということで、各学校の中核となる教務主任を集めて、3時間、このことについて話し合いを行いました。そこでは、国語も数学も算数も全て「問題を読み解く力」、「書く力」が欠落しているという結論になりました。それは中学校だけではなく、小学校段階からしっかり「読み解く力」、「書く力」、いわゆる基礎基本を徹底していく必要があるのではないかと。

例えば、隙間の時間、休憩時間などもドリル等をしっかりやらせながら、当たり前のことをしっかり身に付けさせることが1番大事だという結論に至りましたので、今後はしっかり「読み解く力」、「書く力」を育てていきたいと思っています。以上です。

○ 小宇根教育委員会委員

この前、中学校を訪問させていただいて、最後に懇談する中で、山近課長が指導されていました。

時間を守ることを徹底するとか、整理整頓を徹底するとか、挨拶・返事を徹底するとかいろいろ言っているが、徹底できていないと。教室を見ても挨拶はできていないし、ロッカーは乱雑だし、机の上には教科書が積み上げられて、空いている小さな隙間でプリント書いている。こういう基本的なことが徹底できていなくてどうやって学力が身に付くのか。という指導でした。

何々教育とかいうあらたまったことよりも、そこをまず徹底しないといけないなと思わせていただきました。学力の基本、大本はそこかなと考えました。

○ 明岳市長

ありがとうございます。大事なことですね。

それでは、ほかに御意見がないようでしたら、次の議事に入らせていただきたいと思います。  
報告第3号の「学校統合の取組について」でございます。内容につきまして、小野藤教育長に説明を求めます。よろしくお願いいたします。

○ 小野藤教育委員会教育長

はい。配付資料6ページを御覧ください。

報告第3号とあります。「学校統合の取組について」でございます。

平成21年6月に、学校統合検討委員会が市長へ答申しております、三高中学校の能美中学校への学校統合の取組の進捗状況につきまして、その内容を会議に報告するものでございます。詳細につきましては、学校教育課長から説明いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 山近学校教育課長

資料6の20ページを御覧ください。学校統合の取組について説明いたします。

20ページの1には、三高中学校統合に係る説明会等の経過を表にしております。既に御承知のとおり、平成21年6月に学校統合検討委員会が、市長の方へ「第2次答申」を提出し、その後、約12年が経過し、能美中学校の校舎が完成してからも約7年の期間が経過をしております。

この期間、教育委員会としましては、丁寧に説明会等を継続的に開催させていただいていますが、いまだ、保護者・地域の方々からは統合について御理解を頂けていない状況です。

また、直近で申し上げれば、令和3年11月13日に統合に係る懇話会を実施させていただく予定で準備を進めてまいりましたが、保護者・地域の方々との調整不足で当日の開催は実施することができず、延期となっております。

しかしながら、現在もPTAの方々と連携を図っておりますので、現段階では12月上旬及び1月下旬の2回に分け、統合問題懇話会が実施できるよう、取組を推進しています。

また、21ページの2には、三高中学校の今後の生徒数の推移を表で示しています。御覧のとおり、令和4年度から全校生徒は30人を下回る状況となり、括弧内の数値は女子の生徒数をお示ししていますが、男女の割合を見ましても、学年によってはややアンバランスな学年が出てまいります。

したがって、3のとおり教育委員会の今後の取組の方向性といたしましては、第2次答申を尊重し、三高地区の中学生のより良い教育環境を図る観点から、説明会等を実施し、PTAの方々の思いも受け止めながら、できるだけ早く保護者や地域の方々の合意を頂けるよう、取り組んでまいります。

また、統合の目標年度は原則、1年ごとに延長していることから、令和3年度中に覚書を締結し、令和4年度は統合準備や閉校前の行事を行い、令和5年4月1日の統合に向けて取組を進めてまいります。説明は以上です。

○ 明岳市長

はい。ありがとうございました。

ただいま、報告第3号「学校統合の取組について」の説明を受けました。

これにつきましての御意見をお願いしたいと思います。

○ 泊野教育委員会委員

21ページの三高中の今後の生徒数を見ていても、もう減る一方ですし、男女比もかなりの偏りがあります。今、現状でも2年生6人に対して、女子が1人と、男女比が偏っています。

統廃合については、江田島市だけではなくてほかの地域でも問題になっているかと思しますので、もしほかの学校で、この男女比のアンバランスの問題が挙げられている学校があれば参考として教えてほしいのですが、ありますか。

○ 山近学校教育課長

先ほど申し上げましたように、12月や来年の1月に説明会をさせていただく折に、広島県内で非常に生徒数が少ない中学校の事例も説明したいと思い、先般、生徒数が極めて少ない市の中学校にお電話で状況を聞かせていただきました。

学校長に伺いますと、やはり困ってることは、「同学年で切磋琢磨できない」、「部活動が非常に限られる」そのようなお答えを頂きました。ここについては、先ほど申し上げた三高中学校も同じようなことがいえるのではないかと考えています。

○ 泊野教育委員会委員

三高中学校に学校訪問させていただいたときに、部活動が吹奏楽部とソフトテニス部の二つしかないということをお聞きしました。ソフトテニス部に関しては女子が1人ですが、試合にはペアでないと出場できないのですよ。なので、1人だから三高中学校だけでは試合に出られなかったのですが、大柿中学校の女子の生徒と一緒にいる状況になっています。

こういったところからみても、これからどんどん生徒数は減っていきますので、私としても令和5年度の統合が適当ではないかなと思っております。

○ 明岳市長

そうですね。ありがとうございました。

地域やPTAの合意を得るのに私どもの努力も足りていなかったのかもしれないと反省しているのですけどね。

本気で子供たちのためにやらせてもらいたいんだという説明を、今、教育長以下こうやって進めておりますので、何とか早く実現したい。犠牲になるのは子供ですので、そういうことを保護者の方々にも理解してもらおうと思っております。

そのほかにありませんか。

○ 小野藤教育委員会教育長

今度の12月、1月の説明会、いわゆる懇話会では、教育委員の皆様にも出席していただいて、その状況を見ていただいたり、あるいは思いがあれば発言していただけたらと考えています。

これまでいろいろ話をする中で、いつも教育委員会事務局と地域の保護者で、違う人の意見も聞きたいと言われるので。先ほど山近課長が言いましたように、事務局からも今後の江田島市内の子供の状況等の話をしたり、ちょっと今までと形を変えてみたいと思います。

○ 明岳市長

そうですね。今、泊野委員さんがおっしゃられた女子のソフトテニス部、大柿中学校の生徒と一緒に試合に出るということは初めて教えてもらったんですけどね。それは寂しいですね。

- 小宇根教育委員会委員  
たまたま大柿中学校の女子の数が奇数だったのでペアが組めたという話です。
- 明岳市長  
そうなんですか。では、大柿中学校の女子生徒が2人だったら駄目だったんですか。
- 小宇根教育委員会委員  
はい。
- 明岳市長  
分かりました。樋上委員いかがでしょうか。
- 樋上教育委員会委員  
また後で出てくる児童生徒数の推移の資料を見たときに、今まで閉校した学校がたくさんあります。ちょうど私たちが現役のときに閉校がたくさんあって。資料を見ると自分が勤めていた学校も4校閉校していますし、閉校式には8校出席しています。閉校のときは、地域のつながりが強いところほどやはり反対が大きいですよ。地元から学校をなくしたくないという思いが強い。それは分かるのですが、市長が言われるように、子供の将来を考えたときには、やはり人数が多いところで切磋琢磨しながら、頑張らせたいというのが私たちの考えです。  
今の三高の地域が頑張っているように、思いは本当に分かるんですよ。でも3年くらいたつと慣れて、統合してよかったかなという声も聞かれるようになるんですよ。  
地域のつながりがすごく大きいから、余り無下にとこういうのもいけないのですが、PTAにとっては我が子のことだから、PTAの意見をしっかり聞きたいですよ。  
地域の声も大事ですが、PTAの声を聞きながら子供の将来を考えるという方向で私たちはいきたいと思います。
- 明岳市長  
私が初めて総合教育会議を開いたとき、三島委員にこの件は非常に難しいですよと助言を頂きましたが、今、正にそのとおりになっています。しかし、ぶれずにやり遂げたい。でないとなぜ三高地区だけがということになってしまう。私はこれを早く解消していきたい。でないと江田島市が一つになっていないような気がします。教育長とも話しますが、ここは最後までぶれずに地域に出向いていきたいと思っています。真意を知ってもらいたいと思っています。子供のためにやらせていただきたいということを訴えていきたいと思っています。
- 三島教育委員会教育長職務代理者  
教育委員会としても、統合については、皆承知していることですので、それに向けて努力していかねばいけないということです。  
いろいろ状況を聞いてみると、今は一部の方の反対意見があるようですが、保護者全員の意向はどうなのだろうということが気になります。反対の強い意見があれば、なかなか声は出しにくいと思いますが、声を出せていない人の意見も掘り出していかねばいけないと思います。



○ 明岳市長

そうですね。そういう意味では、さっき教育長が申し上げたように、教育委員の皆さんにも参加していただくというのは、保護者にとっても良い機会なのかなと思います。これまでは、事務局と保護者とのやりとりだけでしたので。

この件については、よろしいでしょうか。では、次の議事ですが、5分休憩をとりましょうか。よろしいですか。では次の議事に入らせていただきます。協議第1号の「児童生徒数の今後の推移について」でございます。内容につきまして、小野藤教育長に説明を求めます。よろしくお願いいたします。

○ 小野藤教育委員会教育長

はい。配付資料7ページの協議第1号「児童生徒数の今後の推移について」でございます。本市の小中学校の児童生徒数の減少が続く見込みであることに伴い、学校規模の適正化を図ることにつきまして、今後の方向性を協議する必要がありますので、会議の意見を求めるものでございます。詳細につきましては、学校教育課長から説明いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 山近学校教育課長

では、資料7の22ページを御覧ください。児童生徒数の今後の推移について説明いたします。

1には、令和4年度以降の小学校における当面の入学者数を各学校ごとにお示ししています。また、括弧内の数値は、女子の児童数を示しています。

学校ごとに見てみますと、特に、切串小学校と三高小学校では令和6年度以降、入学者数が減少し、令和9年度までには、1学年が10名未満になる学年が数多く出てまいります。

また、市全体の合計児童数を見ましても、令和6年度までは入学者数は100名前後で推移いたしますが、令和7年度以降は80名前後で推移することが推測されます。

次に2には、これまでとこれからを比較する意味で、5年ごとの児童生徒数の推移を表で示しています。市としてスタートいたしました合併時の平成17年度頃には、合計で1,850名程度の児童生徒が在籍していましたが、年々児童生徒数は減少し、赤字で示しています令和7年度には児童生徒数は1,000名を下回り、令和12年度には800名を下回る予定で推移しています。

また23ページには、平成14年度以降の各校の児童数及び生徒数を示しています。

最近では、小学校は平成30年度に柿浦小学校が全校児童23名で統合しています。

中学校では、平成17年度に沖中学校が全校生徒23名で統合し、平成20年度には切串中学校が全校生徒44名で統合しています。

さらに、24ページには、本市の独自推計ではございますが、2030年及び2045年の年少人口や生産年齢人口、高齢者人口を小中学校区ごとに地図上に示しています。本日は特に青字の年少人口に着目していただき、今後の推移を見ていただければと思いますが、どの校区も大幅な減少が見込まれ、全市的には2045年には、本市全体の年少人口は700名程度になることが推測されます。

学校教育課からの説明は以上です。

- 明岳市長  
ありがとうございます。ただいま、協議第1号の「児童生徒数の今後の推移について」の説明を受けました。このことにつきまして、御意見を頂きたいと思います。何でも結構ですので、よろしくお願ひします。  
先ほどお話がありましたが、樋上委員は8校の閉校に関わられたんですか。
- 樋上教育委員会委員  
閉校式に出席したのが8校です。
- 明岳市長  
そこに勤められていたということではないのですね。
- 樋上教育委員会委員  
勤務していたのは4校です。
- 明岳市長  
閉校のときに勤められていたのはどちらの学校ですか。
- 樋上教育委員会委員  
4校は、勤めたことがある学校です。その中で小用は閉校になる側の学校の教員として、柿浦と大君は統合を受け入れる側の学校の教員として勤めていました。大君小学校の統合の際は、すごく強い反対があつて、学校名や校歌や校章を変えてほしいという話までありました。
- 明岳市長  
実際に受け入れて、大君小学校の子供たちと大古小学校の子供たちの受け止め方はどうでしたか。スムーズに受け止めましたか。
- 樋上教育委員会委員  
前年度に、学級交流をしたり行事の交流をしたりしながら、子供たちをつなげていくのですよ。子供たちは、地域や大人よりも早くなじんでいきます。地域の人たちは難しく「もう運動会は見に行かない」などと言われる方もいました。
- 明岳市長  
それは、がっかりしますね。
- 樋上教育委員会委員  
大変でしたね。でも子供たちはすぐになじみます。
- 明岳市長  
いみじくも今言われたところが問題なんです。合併されたら小学校に運動会を見に行かないと言われるのでしょうか。それはどういうことかなと思います。

○ 樋上教育委員会委員

それとですね、やはり少ない人数で大きい人数の学校に入っていくのと、例えば3年生が1人のときに入っていくのと、5人いるときに入っていくのでは、なじみややすさが違うではないですか。それを前の御堂岡教育長はよく言われていました。

○ 明岳市長

それは説得力ありますね。

○ 樋上教育委員会委員

学校がなくなることについて、地域に関してはどこも、柿浦も飛渡瀬も大変でしたよね。もう「統合の話などしてくれるな」という感じでした。

○ 明岳市長

売り言葉に買い言葉になるんでしょうね。寂しいですよ。そういうことを言われると。子供たちを大事に思うのなら、「大古小学校になっても私は応援しに行くぞ」と言ってくれるのが大人の考え方ではないのかなと私は思うのですが。

○ 樋上教育委員会委員

地域の方にとっては、地域が寂れるということが気になるのでしょうか。

○ 明岳市長

だから今回出してくれたこの人口推計というのは、どうやっても、毎年500以上減ってくる状態を皆さん認識してくださいと。これはもう容認せざるを得ない。その中で、みんなが江田島市っていい町だよなと思ってもらうためにどうしたらいいかということを考えてほしいと思っています。

今の樋上委員がおっしゃられたようなことをもしも三高の保護者の方が聞いたら、1人、2人の少ないときに統合するのは、やはりかわいそうだよなというのは感じてくれるかもしれませんがね。事務局が言うのではなくて、先生から言われたら共感してくれるんじゃないかなと思いますね。

樋上委員は小用小学校の統合の際に勤めておられたということですが、統合対象校の先生方はどうのお気持ちなのか。

○ 樋上教育委員会委員

先生方は何も言えないと思います。

○ 明岳市長

統合は、教育行政ですからね。先生の本分というのは児童生徒をいかに教育していくかということに専念しなければいけないのだと思いますが。ただ、やりにくかったですか。

○ 樋上教育委員会委員

そんなことはないですね。

○ 明岳市長

はい。分かりました。ほかにこのことで御意見がありましたらお願いします。

しかし、この減少の数字はすごいですよね。何とか、人口の減少幅を抑制していきたいと思ってるので、今、もがいて、もがいて、やっているのですが。とにかく働く場所をつくって若い人に来てもらいたい。子供を出産してほしいとそういう施策に重点を置いてやっていこうと思っています。

このことについて、ほかに御意見がなければ、次の議事に移らせていただきたいと思います。よろしいですか。

それでは、協議第2号の「学校給食共同調理場統合の見通しについて」でございます。内容につきまして、小野藤教育長に説明を求めます。よろしくお願いいたします。

○ 小野藤教育委員会教育長

資料の8ページ、協議第2号「学校給食共同調理場統合の見通しについて」でございます。

本市の小中学校の児童生徒数の減少が続く見込みであることから、現在ある江田島学校給食共同調理場を西能美学校給食共同調理場に統合し、効率的な運営を行うことにつきまして、今後のスケジュールなどに関して協議する必要がありますので、会議の意見を求めるものでございます。詳細につきましては、学校給食共同調理場総括場長から説明いたします。

○ 仁井学校給食共同調理場総括場長

学校給食共同調理場から、統合の見通しについて御説明します。

資料の25ページをお開きください。まず、1の統合の趣旨については、本市の小中学校の児童生徒数は、今後も減少が続く見込みであることから、江田島と西能美の共同調理場を西能美に統合し、効率的な運営を行うことを目的とするものでございます。

次に、2の現有施設の概要についてですが、表で御覧いただいているとおり、西能美調理場の方が江田島調理場より12年ほど新しく、150平方メートルほど広く、300食ほど調理能力が高いことから、江田島調理場を廃止して、西能美調理場から市内全ての小中学校へ給食を配食することを考えております。

続いて、3の職員配置及び配食状況で、現在及び統合後に見込まれる各調理場の職員数及び配食状況について御説明します。現在は、西能美、江田島の両調理場に、市職員として場長と事務員、県職員として栄養士を1名ずつ、二つの調理場合計で6名を配置していただいておりますが、統合後はこれが職種ごとにそれぞれ1名ずつ、合計3名で足りることになると考えております。

その他の職員と配食状況について合わせて御説明いたします。現在、西能美調理場では、8校分約800食を、14名の会計年度任用職員が調理に当たり、4名の運転手、こちらは委託業者ですが、2台の運搬車で各校に配送しています。江田島調理場では、3校分約500食を、10名の会計年度任用職員が調理に当たり、2名の運転手、こちらも委託業者ですが1台の運搬車で各校に配送しており、二つの調理場の合計では24名の調理員、6名の運転手、3台の運搬車の体制で11校1,300食を配食している状態です。

統合後は、このうち、調理員数が14名まで減少できるものと見込んでいます。配送先となる学校数には変化がありませんので、運転手と運搬車の必要数には変化がありません。ただし、調

理員については、統合後も現在の人員のうち希望者を継続雇用することとし、当分の間は新規雇用を行わないことにより調整することを考えています。

続いて、4の統合のメリット及びデメリットについてです。メリットは、なんといっても運営コストの低減です。参考として掲げた表は、令和2年度の実績を基に、江田島学校給食共同調理場の年間の運営コストを概算で試算したものです。

施設維持管理費として掲げた1,500万円の内訳は、施設や設備の点検や保守の委託料としておよそ430万円、光熱水費として400万円、施設の小規模な損傷箇所を改修するための工事請負費として360万円、燃料費として140万円などを積み上げたものです。

人件費については、場長と再任用職員とで1,000万円、調理員10名分で2,000万円としましたが、これは「控えめに見積もって」という数字です。

その他として修繕料や改修工事の費用として500万円を掲げておりますが、これは築30年が近づく江田島調理場を今後も運用する場合、先ほど施設維持管理費に含めていた小規模な改修とは別に大規模な改修が必要となるであろうことを考慮して、年間維持費の中に最低限の金額として含めたものです。

この金額を合計すると、今後このまま江田島調理場を運用する場合に必要なコストは、年間でおおよそ5,000万円程度になると考えます。

ちなみに現在の江田島調理場施設は「エアシャワーがない」「コンテナプールと時間帯によっては汚染区画となる洗浄室が仕切られていない」など、西能美調理場と比べて設備的に劣っており、これを改修することとなると、ばく大な費用が必要になると思われま

す。次にデメリットについて御説明申し上げます。デメリットとしてア、イ、ウの3項目を掲げております。

アの「大量納品が必要となるため、対応できる納入業者数は減少する傾向となる。」については、例えば地元業者の地元産品をできるだけ使用した上で、不足分を遠方の大きな業者に納入させることで対応できると考えています。

イの「栄養士が1人で市内全校を担当することになるため、業務が繁忙になる。」についても栄養士が1人で市内全校を担当することになれば、現在に比して業務が繁忙になることは当然ですが、他の自治体の体制から見ても「11校で1,300食」というのはそう過重な責務ではないと思われ、栄養士と兼務している栄養教諭の職務との配分等を考慮することで対応すべきであると考えています。

最後のウの「万一の際にバックアップできる調理場がなくなる。」については、西能美調理場が万一使用できなくなったとしても、現在の江田島調理場には市内全域に配食できる設備や能力はなく、配食したとしても「主食だけ」「一品だけ」というような限定的なバックアップ体制になると思われま

す。また、市内には弁当の配食ができそうな仕出し業者が4か所程度ありますので、万一の際はそういった業者さんに配食をお願いすることも考えられます。

総じて、コスト面のメリットが大きい反面、デメリットは工夫次第で克服できるものであるといえます。

最後に5のスケジュールについて御説明します。

現在、二つの調理場の統合を令和5年度当初と見込んでいます。

そのためには、最低限の備品の整備や施設改修などを令和4年度中に、特に工事については調理場が稼働していない夏休み中に行う必要があり、現在そのための予算要求の準備を行っている

ところですが、市議会には、令和4年度の予算審査特別委員会において統合の時期等について御説明することになります。その上で、校長会や調理場運営委員会に御報告を行い、令和4年度中に施設や備品の整備、条例改正等を行った上で令和5年度当初に調理場を統合します。令和5年度の夏休みに行う工事は、江田島調理場で使用していた移設可能な設備を移設することを考えています。

以上で、学校給食共同調理場からの、統合の見通しについての御説明を終わります。

○ 明岳市長

ただいま協議第2号、「学校給食共同調理場統合の見通しについて」の説明を受けました。

これにつきまして、御意見等ございませんでしょうか。ないですかね。

メリットのところで、調理場運営コストが低減できるとあります。江田島市の給食費は、2年前に少し上げさせてもらったのですが、それでも23市町の中で低い位置にあるんですね。これから、物価が上がるなどの要因で、給食費の増額を検討しなければならない状況になることも考えられますが、そうすると、保護者の負担が大きくなるので、できるだけそういったことはしたくない。そういう思いで、これを統合していきたいと考えています。給食費についても保護者の方と市からの負担金で運営してますので、運営コストが低減できれば、その分を給食費の増額による保護者の負担を抑制するために使うことを検討できる。そうした意味で、この取組は、保護者にとっても生徒にとってもいいことだろうと私は思ってます。

運営コストが約年間5,000万というのは少しざくとした数字なので、精査が必要だとは思ってますけども、これについても今から議会にも説明をしながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

給食費は、今、23市町で比較して江田島市の保護者の負担は何番目ですか。

○ 仁井学校給食共同調理場総括場長

改定した当時のデータですが、改定した後の金額で、小学校については、23市町で21番目、中学校については、海田町が中学校で給食を実施していないので、22市町で15番目です。どちらも県内では低い水準です。

○ 明岳市長

2年前に改定したのですが、それでもまだまだ低い水準。これはもう保護者の方にも喜んでもらえると思うんですけど、そういった取組を進めていきたいと思っています。

はい。この件についてよろしいですか。

なければ、その他の項目です。何かこの場において協議あるいは調整しておきたいこと、あるいは、こういったことを少し意見をさせてもらいたいということがありましたら遠慮なく言っていただきたいと思います。

○ 泊野教育委員会委員

人口の減少についてなんですけど、広報えたじまを毎月読んでおまして、「おくやみ」と「すこやか」が気になります。やはり、「すこやか」の方が少なく、私は母子保健推進員もやっておまして、沖美町の岡大王と是長の担当をしております。「すこやか」に出てきて、出産祝いを持っていくのですが、1年に1人いるかいなかです。お子さんが少ないっていうところがやはり

大きな問題じゃないかなと思います。

○ 明岳市長

そうなんですよ。この前も、生まれてくる子供が1人で、亡くなった方々が多くて。しかし、それを悔いても現状は変わらないので、とにかく出産世代の方に江田島市に来ていただく努力をこつこつやっていくしかない。

この前も中町に、IT企業の方が夫婦で住んでくられて、そういう方も増えてきてます。

また、フウドに来てくれた新しい館長さんも広島市内から大原に移り住んでいただいて、お子さんが去年生まれて、これからそういう方を少しずつでも増やしていきたいなあと思ってるんですけど。

本当にこんなにすばらしい住環境なので、もっともっとPRして、いいところだなと思ってもらえるように、みんなで頑張っていこうというわけです。

この前オープンした江田島荘を運営する社員の方が、東京から来てタクシーに乗って、運転手さんに江田島市は良いところですよねと言ったら、江田島市は何もないところだと言われたそうです。がっくりするんですよ。だからその意識を変えていきたい。江田島市は、海軍兵学校以来海上自衛隊の育成機関があり、青少年交流の家もある教育の島です。さとうみ科学館もあります。

だから教育という観点で力を入れてるということをタクシーの運転手さんに知ってもらうような努力をやっていこうと思ってます。せっかく来ていただいたのに地元の人は何もないと言ってしまったら駄目ですから。PRしていきたいなと思います。

○ 三島教育委員会教育長職務代理者

テレビを見ていると、移住に対して手厚い支援をするというのは時々テレビに出ますよね。ああいったことも江田島市はPRが必要ではないかなと思います。

○ 明岳市長

先ほどお話ししたフウドですが、そこの対応が非常にいいと好評です。市の職員でも移住担当の対応が良いから移住してきましたという人もいますよ。

○ 三島教育委員会教育長職務代理者

先ほどのタクシーの話ですが、タクシーやバスの運転手さんは、江田島市の観光の一翼を担っているわけですから、服装等の意識を変えていく必要があると思います。

○ 明岳市長

そうですね。皆さんと一緒に島を良くするいうか、そういう思いになってもらいたいと思いますので、それは是非タクシーの協会にもお願いして、やっていきたいと思います。

○ 樋上教育委員会委員

これまで、一步の会では、若い人たちがばかりで進めて、ついていけないような雰囲気がありましたが、この間の水島のある方の話はとても良かったです。その方は、地域の方たちをプロデュースしていく。例えば、地域のおばちゃんたち、おばあさんたちがやっているものを、観光の素材として発掘して行って、結果として地域が元気になってきたという話でした。私たちにはこん

なものが観光になるのかと思うような中身だったんですけども、でもそれはすごく好評ということでした。

一步の会が今動いているのは、若い人たちだけが、サップだなんだと言っているのですが、年齢が半分以上いるのだから、60代、70代、80代の人たちが、地域の誇りを持って、地域にはこんな良いところがあるということを言っていけるようになればと思います。

この間、初めて一步の会が良い会だなと思いました。

私は初めからずっと出ているのですが、もったいないと感じていました。地元の人がどんどん抜けていたんですよ。この会はどうなるんだろうと思っていました。でも、もう少し頑張らないとお金ももったいないと思います。

○ 明岳市長

そうですね。大きなお金をかけてやっていますから。

だからそれが、えたじまものがたり博覧会というのにつながってるんだと思うんですけどね。

○ 樋上教育委員会委員

あれもいまいちです。しかしコロナ禍がありましたからね。

○ 明岳市長

そうですね。来年もやりますけども。

○ 樋上教育委員会委員

皆が、地域住民が知らないといけないと思うのですよ。地域住民が知って、自分たちも参加できるような会には今なっていないのですよ。

○ 明岳市長

貴重な御意見をありがとうございます。

○ 樋上教育委員会委員

水を差したようなですけどね。

○ 明岳市長

大事です。そういう意見も要るんですよ。一步一步やっていきますので見守ってください。

○ 樋上教育委員会委員

泊野委員は、一步を知っていましたか。

○ 泊野教育委員会委員

知っていますが、中身までは詳しく分かりません。

○ 明岳市長

観光戦略チーム一步なんですけど、海上自衛隊の方々とか、観光協会とか、市民の方の有志で



作った団体。自主的に自分たちで、この江田島の良さをPRして、観光客に来ていただいて、体験してもらおう。そして、リピーターとなってもらう。江田島市のファンを作っていくという団体です。

- 樋上教育委員会委員

今一歩ですね。

- 小野藤教育委員会教育長

一歩一歩前進します。

- 明岳市長

それでは、そのほかないようでしたら、これで本日の議事は全て終了いたしました。ありがとうございました。事務局に司会をお返しします。

- 越野総務課長

皆様、本日はありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和3年度第1回江田島市総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。